

自己点検・評価「多摩美術大学 2000-2003」第4回 学生支援G議事録

- ・ 日 時：2004.8.10（火）13:00～14:00
- ・ 場 所：八王子キャンパス 本部棟 小会議室
- ・ 出席者：中野嘉之（グループ長・学生部長） 福島勝則（映像演劇学科） 植村博（学生部次長）
畔上洋一（就職課長） 田中 誠二（造形表現学部事務課長）（事務担当・学生課 伊藤）
- ・ 配付資料：検討資料（追加分）

議事概要

前回検討したグループ報告書をもとに、本グループ報告のまとめの文章について、下記の通り検討した。

学生支援グループ 報告書 「おわりに」項目整理

- ・ 今後の検討課題を中心に取り上げる

学生対象の「アンケート」実施

学生に対して学生生活委員会主導でアンケートを実施する際に、支援するだけでなく、学生が支援を受けた実態について把握する。大学からの一方通行の支援でなく、学生からのニーズをとらえる。加えて、学生が守るべき社会のルールや自立を促すことも必要になる。今後、学生からの意見の把握とそれに応えることだけでなく、学生と大学が対等に対話できるようにしていきたい。

学生部の利用についての把握

大学生活を送る上で、学生部をどの程度の学生が利用しているかについて、学生に問いつける必要がある。たとえば、就職支援に関しては、就職課の目の届かない学生（＝就職調査を提出していない学生）が約3割程度存在する。学生がどの程度利用しているか、また、どの程度利用価値を感じているかについても把握することで、学生理解につなげていきたい。

卒業後の追跡調査について

卒業後、就職して3年で離職する割合が近年増えている。学生部として、卒業した学生に対しても追跡調査を行い、その実態把握を努める必要がある。

- ・ 学生支援の基本は「人」である。コミュニケーションを大切にしなければならない。

上記の件についてもりこんだ内容を就職課長、学生課長でまとめ、学生支援グループの報告書としてまとめたものを8月中に委員へ送付することになった。

